

夏合宿 ジョギブリキヌカ班 1年 吉田松夫

◎7月25日 いわて3号

我々は上野23:32発いわて3号に乗り藍園へ向かった。車内は国鉄が省エネにさから、一晩中冷房を続けていたので、非常に寒かった。また同じ車両に騒々しい乗客がいたりしたので、あまりよく眠れなかった。

◎7月26日 初日 藍園→柳沢キャンプ場

初日にして早くもじり森に遭遇したが、まあ平穏無事だった。柳沢キャンプ場はトイシのなりのかざんだった。

◎7月27日 ねびりの八幡平 柳沢→大沼キャンプ場

朝から八幡平方面はおかしな空模様だった。我々は柳沢から252号線に出て、まずは買い出し地の大更に向かった。途中、先頭を走っていた山口さん加大型トラックの編寄せにあい、ころびそうになったが、うまく歩道に逃げて無事を得た。

前評判では八幡平は楽勝ということだったが、それは大うそだった。大更からず、とどらだら上り、そしていきなり10%以上は確実にあるような急で、ヒてもきつかった。特にアスローラインのゲートから先では蓋×シを食わずに上、たせいか力切れになり、また雨も降ってきて散々だった。三井は完全におちこちしてしまった。その一方で泳見さんはチャームであつたに

MEMO: 柳沢 一天 ¥200 大沼 一人 ¥100

もかかわらずト、アだ、た。ハ幡平見物は雨加ひどかったのでやめになった。それから橋までは大沼のサイクリング部と一緒にになったが、我々はなせか必死で身分を隠し通した。

雨のハ幡平から大沼まで下、てみるとうきのような晴天だった。ということでテントになった。しかしその夜から次の朝にかけてどしどし雨が降り、ものに見事に浸水 — 教訓：溝は必ず掘ろう — それからこの日はV.S.O.Pを打破するために我々はピーマンの肉詰めには挑戦したが、でき上がったのはピーマンの肉盛りと膨大な量の焼ひき肉だった。(肉の量に対してピーマンが少なかったのが最大の敗因だった。)

◎7月28日 恐怖のショートカット 大沼→松葉(ユース)

朝にな、てもかなりの雨だった。ので、

しばらくはテント内でうじ、ていたが、

結局11時頃に出発、アスピーテライン

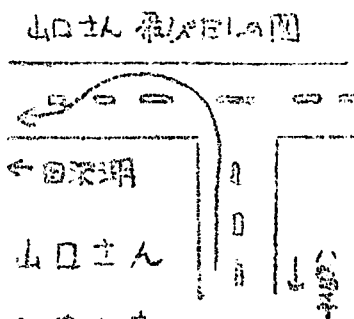
から34号線に出るT字路でブレーキ不調の山口さん

が大きく飛びだし、うまいこと(?)向こうから車が来

ていたら危壁に突んでいった。34号線は、はじめのうちは上りで

結構きつかったが、そのうち川沿いの下りにな、た。川は前日

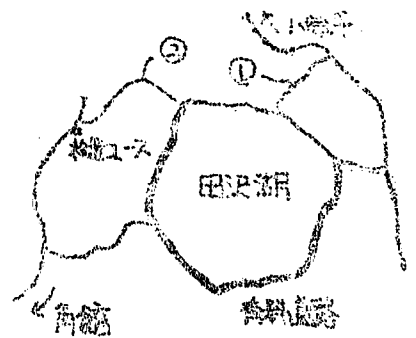
からの雨のため激流にな、っていた。あそこには落ちたら命はない



MEMO: ②の道は傾斜が激しかった。

な、と悪うと念うとなく喋り込みそうな気がしておそろしかった。

田沢湖に入る二本の道のうち、私たちは北側の道(①)を選んだ。この道はエアリアマップでは、一般新潟府県道の色解ついていたがその実体は1/2の地帯図で-----の道だった。随分は、雨水の



通り道となっていて、せいかじり道を超越して河原の領域に入っていて、さらにその時は雨のあとだったので川になっていた。クワはすぐに水たしになってしまった。僕は2、3回こけて荷物を水浸させようになった。この第1のシュートカットを抜けて田沢湖に入るころには空は青空となっていた。

田沢湖畔でしばらく休んだのち、我々は松葉ユースへ向かう道(②)に入った。この道もまた同様だった。道が平坦なうちは普通のじゃり道だったが上になるとすぐじゃり川になった。その上この道はみんなに車道通っていたので、車を気にしなから走らなければならなかった。その上道が下りになるとしばらく行ったところで突如斎藤さんの片方のサイドバッグがキャブアザゴヒボ、飛んでしまった。今迄初の大トラブルだった。

MEMO: 羽後牛島は羽越本線で秋田の次の駅

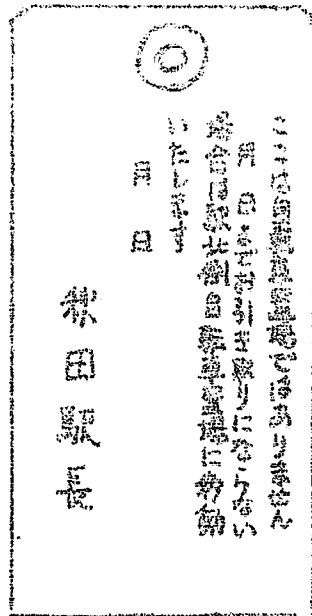
どうしようもないので、車をキャリアにくくりつけて来た

◎7月29日

松葉一秋田

途中、山口さんの前輪がスロートケンクしていることがわかったが、修理はせずにそのまま走った。秋田まで約ア。アタリンは少しあつたが、それほど苦しくはなかった。昼食は羽後焼というところでした。この時食べたみそラーメンは汁が黒々としていてとてもしょっぱかった。

秋田に着くころには雨がぼつぼつと降ってきました。我々はまず羽後牛島という駅へ行つて駅に泊めてくれるよう頼んだ。駅側は泣いていたが結局山口さんの学生証を掲げることで泊まれることになった。そのあと秋田駅前には食券と朝メシの買い出しに行つた。この時自販機5台を駅前に並べつなひで置いていたら、1台おまに腐のような札を付けられてしまった。



実物は赤文字 烏黒字

また、ここでランドナーと名義牛車の人組と会い、この2人も羽後牛島に泊まることになった。

この晩は早く寝るわけにはいかなかった。故マージャン

MEMO: 全満(このうら)

をやった。途中変なオジサンが寄、てきて奇藤士人にうそを教
えていた。駅の中は駅が駅山にとうるすか、たが暑いのでニュ
ラフにもぐり込むわけにもいかず、非常に困った。奇藤士人は
そのうち駅舎の外へ監禁して行った、三杆は親性でニュラフに
もぐり込んで寝ていたが、朝起きると御加養していたところは汗
でぐちゃぐちゃになられていた。

◎7月20日

秋田→全満

海岸沿いをひたすら南下、下。アダウシ+強い向かい風で大
いに加びってしまった。はじめは奇藤さんかド。アを引いてい
たがだんだんと力尽なくなり、中学位くらいのかきの自転車に
も負けるスピードになってしまった。そのあとしばらくは僕が
トッアを走、たが僕もまた、力尽きてパテってしまった。なお
この日は奇藤士人がチャ、奇藤士人はチャーのため、泣文し
たカリ針を幸分くらいしか愛やらぬなかつた。この日も宿泊場
所は待、きりしていなかつたが結局象島ゾウジマの少し手前の金剛とい
うところに水道完備の砂浜を見つけ、そこに夕マで泊ることに
な、た。風が強い。たので予ニバリには少し手間ど、た。橋に
フライ用のアラバアはすぐ風に負けを抜けてしまい、僕いもの
上にならなかつた。

◎7月31日 阪に負けた鳥海 金満→鳥海(餅立荘)

象潟で選い出しをしてお昼を食ってから鳥海へ向かった。鳥海はとてつらかった。ブルーラインに入る前の上りもなかなかのものだ。しかし、ブルーラインに入ってから10%の標識の通過。それも「10% この先800m」というふうなものあって大いに削びてしまった。その上風が強くてカーブを曲るたびに曇りになり全然直視できなくなり、さらに全然ペースがつかめなかった。僕はちと力が出ず、後半は他の4人に完全に引き離されてしまった。やっぱり上はたどりついたら4人の他に山勢ごもり班もいて、何となくぼつが落ちた。

喉が乾いたのをがぶ飲みしたので、初めてまともな水を飲むことができた。

◎8月1日 うじり 餅立山荘

鳥海登山の予定だったが天候が悪いので増道となった。山勢ごもり班を見送ってからはゲームセンターで戯れたり、ぶらぶらしてはいたりしていた。

◎8月2日

また天候が悪かったのでついに登山をあきらめ下山することになった。霧のため視界は5メートル程度だった。当然下りも

湯ノ浜 (正しくは湯野浜) 50

スピードをおさえ走らなければならなかった。あーつまらない。けれど後半はガスが晴れ出たのでかなりスピードを出すことができた。吸瀬まで下りたところで、海水浴にするか、それともある程度走るかということになったが、そこで海水浴になると3日から5日間30km程度しか走れないことになり、それではあまりにも脆弱なので走ることになった。この日は結局湯ノ浜という熱海のふんいぎが漂うところまで走り、そこの砂浜(駐車場兼キャンプ場)でテントを張ることになった。

夕メシのしたくをしている時に寒冷前線の通過に伴うものすごい雨が海のほうから砂といっしょに吹まっていた。その音は大型トローラーがテントのほうへつっこんでくるようなすごい音だった。少々浸水があったが、グラシの下のかめいた砂をこすりつけたらすぐにかめいた。自転車のほうは、この雨のために山口さんの自転車のフリーが空転しなくなってしまった。しかしこれは水洗いによってもとどおりになった。しかしこの時は本当にラッキーだった。テントを張る場所がちょっとちがっていたら完全にOUTだった。

豪雨のあとの図 →



◎8月3日 海水浴

湯ノ浜

波が少々高かったので泳ぎにくかった。またところどころに水が異様に冷たいところがあった。一日中遊んでいたらかなり疲れた。また日やけで背中がひりひりした。

夜は山口さん、永見さん、僕の3人は外で寝てみることにした。しかし僕は寒さに負けて夜中にテントへ撤退してしまった。

◎8月4日

湯ノ浜→月山荘

まずは湯ノ浜から鶴岡まで走った。そこで月山のキャンプ場を確認電話を入れたところ、キャンプ場は団体の予約があるのでダメということになり、こじまった。そこで我々は月山は新直で車を走らせ、たかたか泊まりそうなところまで下りていくことにして出発した。新直はず、とゆるい上りで車勝の感じだった。しかし世の中はうまくいかないもので、なんと新直は未完成。結局は旧直まで上っていかねばならなかった。ど、と疲れた。旧直とは陽殿山有料道路のところで合流。そこからもしばらくは上りだった。予定外の上りだったので苦しかった。このころからぽつぽつと雨が降ってきた。旧直を上りきって下りに入ったところで僕と三井が衝突してしまった。原因は先頭を走っていた僕が後ろの方からの声を聞いて後方を確認せずに急停止し

MEMO: 根子(ぬこ) 左沢(あてらさわ)

たため。三井は負傷、全く悪いことをしてしま、た。僕たちが
暴政、たこともあり、その日のうちに山形のほうまで下るのは
やめになり、泊まりは国民宿舎の月山荘とな、た。

(なお、月山の新道は本当は自販車通行禁止だ、た。)

◎8月5日 悪夢の地蔵峠 月山→左沢(旅館)

前日、あのまま下、ていればここを通ることはなか、たかも
知れない。この日、いざ出発という時にな、て国民宿舎のおね
えさんに国道が不通だと知らされ、我々は大きくまわり道をし
なければならなくな、てしま、た。そのまわり道の途中にあっ
たのが地蔵峠だ。地図で見る限り、途中には何も無いようだ、
たので、我々は非常食(ビスケット程度)を夏、てから地蔵峠に向か
った。道は途中の根子というところまでは舗装だ、たが、その
あとよりになるとすぐにじゃり道にかわ、た。じゃり道の峠、
さらに雨と条件は最悪だ、た解、気前でも一時すぎまでには峠
を越えて鎮西屋にたけられぬ感じだ、た。しかし悪いことは変
なるもので、途中で奇藤立んの後輪がバースト。雨の中での修
理とな、た。この時永見さんはず、と先に折、てしま、ていた
が、そのうち歩いてもど、てきて修理にたけられ、た。

一時間弱かか、て修理は一応終れ、たが、このあとは奇藤立

んは大急をこめて押しに変わったのでかなりペースはおまくなった。下りに入ってからまた大変だった。ものすごく急な下りだ。たまため後ブレーキしか使えない齊藤さんとブレーキ不調の山口さんはフットブレーキを併用したり、降りて下ったりしなければならなかった。また山口さんのサイドバッグの革ベルトが切れてバッグが落ちたりした。そしてついには前々からぐらついていた山口さんのキャリア枠がふたび齊藤さんと同じく片断になってしまった。ずいずいと下っていくと道を横切ると川が流れているところがあった。そこで我々は齊藤さんのタイヤを人里までもたせるべく、最後の大修繕を行った。この間多くの車がこの道を通っていたが、川が横切っているのを気にせずに突っこんでいく車もあり、手前まで一度止まって水の深さを確認してからおそるおそる通っていく車もありで、見ていてなかなかおもしろかった。

そのあとは齊藤さんが先頭を、タイヤにミョウクを手入れないように気をつけながら走った。このあとは幸いかなり長い距離を走りつづけることができた。最後まで足り切れなかったがすぐにタイヤもキリを入れることができたし、なんとか左沢という駅にたどり着くことができた。 やっと悪夢の日は終わった。

MEMO: 坊平 一人 ¥150

◎8月6日 3人おっこの蔵王 左沢→坊平キャンプ場

まずは山形まで走った。山形で買い出しをして蔵王へ。我々は蔵王温泉のほうへは行かないで、上山のほうから上った。この日は初めて炎天下での上りを経験することになった。僕は完全に暑さにかび、てしまった。その上坂も急で僕は全く戦意喪失、斉藤さんも僕と同様かったるそうだった。山口さんも体調が悪そうだった。一方永見さんと三井はすこぶる元気で2人はどんどん上っていった。僕は2人についていくのはかったるかったる(不可能だ、た)ので山口さん、斉藤さんと休み休み、水及び清涼飲料水をかび飲みしながら、ちんたらと上っていった。エコーラインの手前の分岐点で2人は待っていてくれたが、走り出すとまた同様に2対3に分かれてしまった。

坊平キャンプ場は国設だけあってゴミの始末その他がとてもしっかりしかつた。最悪だったのはチェリーナ壺が使用禁止でクレンジーを使わなければならなかつたことだった。クレンジーの容器には「曇かな泡だち」と書いてあったが使ってみると大うそで、かたづけがちつともはかどらなかつた。一チェリーナは偉大だ。それからこの日も夕方から雨に降られたが、満もしうかり振って流れたので被害はほとんどなかつた。

◎8月7日 きょうも雨

坊斗→遠刈田

またも、永見さんと三井は強く、3人は大きく引き離されてちんたらと走っていた。すると後ろから広島工大の連中が絶々とやってくる約5人に追いつかれてしまった。これではいかんと言うことになりその後少し力を出して走り、結局2人だけ抜きかえすことができた。この日は久々にいい感じで上ることができた。頂上付近は雨のためかなり寒かった。またハイラインは長くはなかったが少々疲れた。そして苦勞して上ったのにお釜は全然見えなかった。非常に残念だった。これで今合宿は山の上は全くくもりか雨。全くひどいもんだ。結局頂上付近を少し歩きまわっただけで下山となった。下りはじめはガスっていて寒かったがすぐにガスはなくなり晴れとなった。そこで一度休んで記念写真を撮り、さらに下った。巖王の下りはカーブあり、ジャンプ台ありでとても楽しかった。宿泊は遠刈田のキャンプ場の予定だったが行ってみると団体さんが使っていて、仕方がないので橋の下の河原にグズでテントを張った。広島工大の連中もあとから来て我々の横でテントを張っていた。夕方、川の向こう岸から子供が川のオッサンがこっちの方へ向けて口々に花火を打ち上げてきた。そこで我々も永見さんの誘いで

MEMO : 中国製花火といふ魔術弾

き中国製のロケット花火で応戦しようとしたがさすが中国製だけあって、射程距離も短く、また中には飛ばないうちに爆発するものもあって全然だめであった。

◎8月8日 最終日

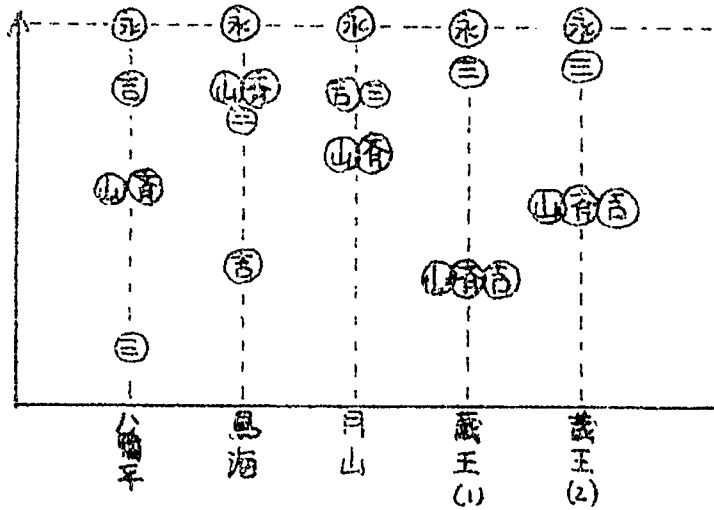
遠刈田→仙台

我々の朝メシが食パンと紅茶なのに対して広島工大はメシとみそ汁だった。しみじみと差を感じてしまった。我々が前の晩の食器を川で洗っている間に彼らは出発していった。我々は仙台まではそう遠くないということできゅっくりと出発した。遠刈田から2時間ほど行ったところで我々は川崎町のほうへ抜ける道に入った。その道は思ったよりもかなりきつかった。かなりの上りで、その上途中からはじり道でかなり走りづらかった。川崎町に出るからは266号線でひたすら仙台に向かい、2時ごろには仙台に到着した。昼メシは駅の地下のラーメン屋で食った。この時、店の人が僕と有藤さんの分の伝票を置いていかなかったのど、2人分の代金で4人が食えることとなった。非常にろくにんだった。しかし、このあとはなんとなくそのラーメン屋の前は参りづらかった。そのあとは七夕見物をしたり、大魚民をしたりして過ごし、夜は仙台駅の3階で眠った。仙台駅3階は駅舎には最高の環境だった。

考察・感想編

1 力について

各上りにおける各人の速さをグラフにするとだいたい下のようになります(永見さん基準)



< 論評 >

永見さん： ば力力の持ち主、上りでは常にトップ、八幡平ではキャーだ、たがそれでも俺はついて行けなかった。後半は疲れのためか三井に肉直された。

山口さん： この2人は力があるのかどうかは、きりしな
齋藤さん
い。いつも2人でマイペースという感じだった。タバコを吸うとこのような走り方になるのだろうか。

三井： 八幡平では押しに徹したがその後にはひたすら

のぼり調子。蔵王ではバカカマンに変身してしま
った。三井は常人と違って走れば走るほど力
が出るようだ。全くおそろしいやつである。

2 キャンプについて

(1) テント

- 5人が寝るには少々せまかった。
- アラバクが力なしだということがわかった。
- やはりマットはテントの必需品であるようだ。
—— 三井はかなり苦労していたようだ。

(2) おし

- 小さな町には新鮮な野菜がなくて困った。
- 結局、V.S.O.Pから脱出できなかったのが残念だった。
- いつまでたってもメシはきに食料がなかったのが残念だった
(いつも水が少なくて途中で足っていた)
- できればピークを2つもていきたい。(カヌーのやつは
力が足りない)
- 使った食糧・タバコはその日のうちに減ったほうがいい。
(一晩おくとこびりついたものはとれにくくなるし、残飯
は気色悪くなるし、全くいいことはない)

○朝食をもっとリッチにしたい

(3)その他

○後半は毎晩毎晩大奮りだったのがさすがに疲れてしまった。

3 自転車のトラブルについて

(1)パースト対策

○やはりタイヤは一年ごとに交換したほうがいいようだ。

○広島工大の悪党はスパータイヤをくくりつけて走っていた。

(2)キャリア

○思うに、あれだけの重みのかかるサイド杯を、今までのボルトだけで固定するのは無理があるのではないだろうか。

(本格的なチャンピオン車では大たいサイド杯はシートステーに止められている。)

4 他の大学と比較して

○東大も広島工大も出発前にはしっかり体操をしたり円陣を組んだりしていた。

○東大も広島工大も、うちよりも赤もな色のを食っていた。

5 反省点

○前半は地図を見ないでただ凭頼たく、ついて走っていた。

○月山で三井にけがをさせた。(おわり)